

商学研究科 教員情報

<金融・証券系列>

氏名	小原 英隆（おはら ひでたか）	
担当専修科目	前期課程:「金融理論特論」	
研究テーマ	【NOT ファイナンス】貨幣社会の極限的状況の抽象的分析	
研究指導領域	【NOT ファイナンス】貨幣社会学・貨幣哲学・貨幣の純粹抽象理論	
キーワード (10個以内)	・貨幣の抽象哲学 ・貨幣はいつ、いかにして誕生したか ・貨幣の社会学 ・ジンメル ・ゲゼル	・社会的信認と貨幣 ・ハイパーインフレーション ・ロゴフ ・人口減少とM.フリードマンの恒常所得仮説 ・サージェントの合理的予想の理論
志願者への メッセージなど	研究大学院は学部の延長線上にはなく、お金にならなくても真理追求、人類知の進歩のために研究・修業を重ねる学問の塔である。学問とはお金を稼ぐため、良い就職を得るため、キャリアアップのためのことは一切行わない。後者が欲しい人々はビジネススクール＝経営大学院に行くしかない。本研究室に来るには、学部時代に経済学ないしは金融学を専攻しミクロ経済学・マクロ経済学・金融経済学・統計学・計量経済学全てにおいて、全て、Sグレードを取るくらい完璧に学習し、なおかつ、自分の予定する研究テーマに関する専門書を10冊以上精読することが大前提である。研究大学院では学部と異なり、教授から一方的に知識を受け取るのではなく、自ら修士論文を目指して、自主的に研究することがほとんどとなる。2年目に書く修士論文は、本研究室では、ただ調べて書いただけの、おざなりなもの(サーベイ論文)では失格とする。修士論文は学問レベルで何か新しいものを付け加えるようなプロレベルものでなくてはならない。	

商学研究科 教員情報

<金融・証券系列>

氏名	土屋 陽一（つちや よういち）	
担当専修科目	前期課程:「金融理論特論」「金融理論特論演習」	
研究テーマ	金融・経済予測、経済主体の期待形成と情報の役割、国際機関(IMF, OECD, EC, World Bankなど)、暗号資産	
研究指導領域	本研究室では、以下のテーマについて研究指導を行うことが可能である。 ・金融変数(金利、株価、為替)を対象とした予測とその評価 ・経済変数(GDP、インフレ率、雇用、生産など)を対象とした予測とその評価 ・経済主体の期待形成に関する実証研究(合理的不注意モデル、不完全情報モデル、粘着情報モデルなど) ・予測者(エコノミスト、消費者、企業、国際機関、中央銀行)の期待形成・予測行動 ・機械学習の経済予測への応用 ・暗号資産に関する研究	
キーワード (10個以内)	・予測評価 ・期待形成 ・インフレ期待 ・サーベイ調査 ・情報の不完全性・粘着性	・群衆行動 ・応用計量経済学 ・中央銀行 ・国際機関 ・ビットコイン
志願者への メッセージなど	充実した研究成果を出すため、そして、より良い就職先を得るために、第一にミクロ・マクロ経済学、計量経済学・統計学、プログラミング(R、Pythonなど)の知識を身につけてもらいます。その次に、それらの知識を土台として、実証的な研究テーマを設定し、研究を行います。 修士課程修了後に就職をする方、博士課程への進学を考えている方ともに歓迎します。進路と学生の適正・希望に応じて、研究テーマの設定方法(指導教員が提示する、あるいは、学生自身で見つける)を考慮します。	

商学研究科 教員情報

<金融・証券系列>

氏名	伊藤 隆康 (いとう たかやす)	
担当専修科目	前期課程:「金融機関論特論」「金融機関論特論演習」 後期課程:「金融機関論特殊研究」「金融機関論特殊演習」	
研究テーマ	中央銀行と金融市場,中央銀行の市場との対話	
研究指導領域	中央銀行,金融市場,金融システムに関連した分野	
キーワード (10個以内)	・中央銀行 ・金融政策と市場との対話 ・国債 ・金利スワップ ・国際金融市場	・金融システム ・REIT(Real Estate Investment Trust) ・金利形成
志願者への メッセージなど	金融分野を研究していくには、幅広い金融の知識に加えて、経済学、統計学、会計学などに関連した分野の知識が必要不可欠です。また、金融に関連した先行研究は、外国語の文献が多いため、英語力が必要となります。データを用いて客観的に現実の金融問題を検証することが大切です。	

商学研究科 教員情報

<金融・証券系列>

氏名	野田 顕彦（のだ あきひこ）	
担当専修科目	前期課程:「証券市場論特論」「証券市場論特論演習」	
研究テーマ	金融市場における価格形成機能の時変構造に関する研究	
研究指導領域	金融市場で取引される証券価格は、その本源的価値のみならず、政策変更に関するアナウンスメント、国際情勢、自然災害など、様々な理由で日々変動している。それら利用可能な情報が証券価格に対して常に完全に反映される市場は情報効率的であるといい、現代ファイナンスにおける価格形成メカニズムの基礎を成す。 本研究室では、計量ファイナンスに基づき、金融市場(株式・国債・商品先物・外国為替・仮想通貨)における価格形成が情報に対して通時的に効率的であるか、すなわち金融市場の価格形成機能の通時的安定性に関する研究を行う。また、それと同時に、もし通時的に効率的ではないとすれば、それはどのような要因によるものか、について解明することを目指す。 そのための前提知識として、まずはミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学(とりわけ、時系列解析)についての学習を進める。さらには計量ファイナンス分野の国際学術雑誌に掲載された最先端の研究を読み込み、それらの貢献や限界を踏まえた上で論文を執筆していく。	
キーワード (10個以内)	・計量ファイナンス ・時系列解析 ・国際金融論 ・時変パラメータモデル ・状態空間モデル	・一般化最小2乗法 ・構造変化 ・ボラティリティ変動モデル ・効率的市場仮説 ・適応的市場仮説
志願者へのメッセージなど	かつて、アルフレッド・ノーベル記念経済学スウェーデン国立銀行賞(通称ノーベル経済学賞)の受賞者であるチャリング・クープマンズは、<i>Review of Economics and Statistics</i> 誌において「理論なき計測」を痛烈に批判しました。クープマンズの批判は、「理論によって規定された変数間の関係を、適切なデータと分析手法を用いて(科学的・客観的に)計測する」ことの重要性を説いたものに他ならず、その後の経済学・ファイナンス分野の方向性を決定づける契機となりました。 しかし、クープマンズの批判から約75年が経過した現代において、経済学・ファイナンス分野は新たなパラダイムシフトに直面しています。クープマンズの時代には存在しえなかった、リッチなデータセット、洗練された分析手法の出現によって、これまでのように理論で規定された変数間の関係を援用して計測する必然性が失われつつあるからです。 こうした現状は、理論偏重が強かった経済学・ファイナンス分野における「計測なき理論」の問題を見直す良いきっかけとなると考えられます。「健全な科学の発展」には、理論・データ・分析手法のバランス感覚が最重要だからです。本研究室では、経済学・ファイナンス分野における「健全な科学の発展」を目指して研究・教育を進めていきます。	

商学研究科 教員情報

<金融・証券系列>

氏名	三和 裕美子（みわ ゆみこ）	
担当専修科目	前期課程：「機関投資家論特論」「機関投資家論特論演習」 後期課程：「機関投資家論特殊研究」「機関投資家論特殊演習」	
研究テーマ	経済の金融化と機関投資家行動、機関投資家とコーポレート・ガバナンス、機関投資家のESG(環境・社会・ガバナンス)投資、機関投資家のスチュワードシップコードとエンゲージメント、ファンド規制	
研究指導領域	今日の経済は「金融化」していると言われている。これは、金融自由化の政策下で、機関投資家の資産運用がグローバルに展開するよになり、実物資産に比べて、金融資産の蓄積がはるかに急速に進むようになったこと。これらの諸変化にともない、企業や家計部門の経済活動が、金融市場の動向によって影響を受ける度合いが強まっていることを意味する。こうした問題の中で、機関投資家の行動に焦点をあて、特に機関投資家がコーポレート・ガバナンスに及ぼす影響、株主価値極大化経営を要求するファンド、それらに資産運用を委ねる年金基金の行動、ガバナンス、規制、タックスヘイブンの問題に焦点を当てる。また、経済金融化における証券取引所の変節も研究領域である。今日的な問題として、機関投資家のスチュワードシップコード(責任投資原則)とエンゲージメント(長期保有を目的として企業と対話を行う投資手法)の効果、問題点なども扱っている。	
キーワード (10個以内)	・経済の金融化 ・コーポレート・ガバナンス ・社会的責任投資 ・スチュワードシップコード ・エンゲージメント	・株主価値極大化経営 ・ファンド規制 ・タックスヘイブン ・証券取引所の自主規制 ・金融肥大化と経済格差
志願者への メッセージなど	機関投資家論は、現代の金融の肥大化が生んだ学問領域だと思います。金融自由化移行の歴史的な背景、実体経済との乖離を認識することで金融の肥大化、グローバル化が実体経済をいかに圧迫してるかがわかります。また、金融資産の急速な蓄積は、経済格差の拡大をもたらしています。こうしたことに問題意識をもち、複雑な金融の世界を紐解いて行こうとする意欲的な人物を歓迎します。	

商学研究科 教員情報

<金融・証券系列>

氏名	太田 壘（おおた るい）	
担当専修科目	前期課程:「国際金融論特論」「国際金融論特論演習」	
研究テーマ	ニュースの文脈を通じて計測する不確実性指数の開発	
研究指導領域	国際金融論、国際経済学	
キーワード (10個以内)	・政策不確実性 ・情報 ・社会学習 ・ ・	・ ・ ・ ・ ・
志願者への メッセージなど	大規模言語モデルを用いてニュースの文脈から経済政策の不確実性を計測し、不確実性が経済活動に与える影響を分析します。ご興味がある方は一緒に研究しましょう。	

商学研究科 教員情報

<金融・証券系列>

氏名	萩原 統宏（はぎわら もとひろ）	
担当専修科目	前期課程:「金融取引論特論」「金融取引論特論演習」 前期課程:「金融取引論特殊研究」「金融取引論特殊演習」	
研究テーマ	企業財務, 資本市場, および, 投資行動に関する定量的分析	
研究指導領域	預金・債券・株式等を対象とする金融資産運用において、より高く、より安定した収益を達成するため、機関投資家、個人投資家を問わず、多くの人々が、数え切れないほどの投資戦略を考案してきた。それらの投資戦略の中で、ある程度長期にわたって有効であることが立証され体系化されてきたものが、いわゆる現代ポートフォリオ理論であり、それに対する拡張である行動ファイナンス理論である。しかし、投資戦略が、他の投資家よりも高い収益を達成することを目的とする以上、投資戦略が理論として体系化され、広く知られてしまうことは、その戦略によって高い収益を得ることを不可能にしてしまうことにつながる。また、ある時期、ある市場において優れていた投資戦略が、将来においても、また別の市場においても有効である保証は無く、優れた投資戦略とは、投資する時期・投資する市場ごとに異なると考えられる。したがって、「優れた投資戦略とは何か」という問題は、正解の無い問題であり、議論の尽きない魅力的な問題と言える。投資戦略とは、結局、「何を買うべきか＝何が割安なのか」「何を売るべきなのか＝何が割高なのか」を判断する価格評価基準を持つことを指す。価格評価基準は、投資家だけでなく、株式・債券を発行して資金調達を行う企業経営者にとっても重要である。なぜなら、「割安である＝投資して資金運用」「割高である＝発行して資金調達」という判断ができるからである。したがって、金融投資戦略の知識は、運用の実務家または個人投資家にとってだけでなく、企業の財務・資金調達活動を企画する実務家にとっても有用である。	
キーワード (10個以内)	・株式評価 ・債券評価 ・企業価値評価 ・リスクマネジメント ・非財務情報	・経営戦略 ・資本構成 ・財務戦略 ・人的投資 ・ダイバーシティ経営
志願者への メッセージなど	過去の指導修士論文のテーマは、「日本の銀行の株価収益率に対する収益・財務構造に基づく分析」「女性の活用による企業価値への貢献の可能性」であり、優れた才能は要求せず、各学生のレベルに応じた指導をしてきました。私の研究室は、実務家志向の人、そのために役に立つ学問をしたいと考えている人を特に歓迎し、真面目で明るく学問に取り組む姿勢を強く求めます。	

商学研究科 教員情報

< 保険系列 >

氏名	中林 真理子（なかばやし まりこ）	
担当専修科目	前期課程:「保険理論特論」「保険理論特論演習」 後期課程:「保険理論特殊研究」「保険理論特殊演習」	
研究テーマ	保険・リスクマネジメント・企業倫理に関する包括的研究	
研究指導領域	保険はリスクファイナンスの有力な一手法である。リスク処理に関する専門知識を有する保険会社にリスクを移転することで、より少ない負担でより効果的なリスク移転が可能になることが多い。そして近年は保険に加えた多様なリスクファイナンス手法の開発が進むと同時に、リスクの悪影響を最少にするためのリスクコントロール手法の重要性についての認識が企業を中心に定着してきた。 本研究室では、企業を中心とした組織におけるリスクマネジメントの理論と実践について研究指導を行う。組織の活動は、様々なリスクの影響下において展開されている。このため組織の構成員がリスクについて理解し認識していないと、思わぬところでダメージを被り、組織としての持続的・安定的な経営が脅かされることになる。そこで、リスクマネジメントの知識習得に加えて、ケーススタディーにより、ビジネスリスクとそれに対するリスクマネジメントプロセスに従った対応策について検討する。この際、企業を取り巻くリスクの一つとして近年その深刻さを増している企業倫理に関わる問題に特に注目している。	
キーワード (10個以内)	・リスクマネジメント ・リスクファイナンス ・保険理論 ・リスクコントロール ・企業倫理	・コーポレートガバナンス ・コンプライアンス ・モラルハザード
志願者への メッセージなど	保険関連科目はファイナンス理論の一部に含まれている場合も多いですが、明治大学大学院商学研究科は保険関連科目が充実し、保険系列として独立する数少ない研究科です。 保険を含む多様なリスクファイナンス手法の開発が進んでいる一方、保険は欠かせない存在であり続けています。保険制度のこのような有用性が何に由来するものなのか見極めることから、リスクマネジメントの本質について考察を深めましょう。	

商学研究科 教員情報

<交通系列>

氏名	藤井 秀登（ふじい ひでと）	
担当専修科目	前期課程:「交通理論特論」「交通理論特論演習」 後期課程:「交通理論特殊研究」「交通理論特殊演習」	
研究テーマ	持続可能な交通政策に関する研究	
研究指導領域	交通理論とは、交通という現象の実体を歴史的・体系的に認識しながら、交通の論理を概念的実体として体系化することです。そのために、哲学・論理学の構築過程をまずは辿り返すこと、同時に、社会経済学と経済社会学の歴史的・体系的な修得をすることが求められます。そこで、認識論・経済学・社会学に対する基本的な理解が得られるように指導していきます。こうした基礎作業を経たうえで、交通の歴史・理論・政策に関する研究動向を日本を基軸にしながら考察していきます。その際、陸運・海運・空運といった交通事業者の視点、社会変動の視点、国際的な比較の視点にも留意していきます。	
キーワード (10個以内)	・交通理論 ・交通政策 ・交通史 ・社会経済学 ・経済社会学	・交通の公共性 ・交通の持続可能性 ・都市交通 ・観光交通 ・生活交通
志願者への メッセージなど	学問とは反省即構成です。これは、現象だけに満足するのではなく、その構造と本質を探ること、さらに、本質から構造と現象を再構築していくことを意味しています。交通という各論に突入する前に、歴史性と体系性をもって交通を認識できる頭の中の目を創っていく過程が必要なのです。「急がば回れ」という格言のように、一見遠回りにみえても、成果を急ぐならば、着実な方法を採用することが得策だと考えます。	

商学研究科 教員情報

<交通系列>

氏名	町田 一兵（まちだ いっぺい）	
担当専修科目	博士前期課程:「国際交通論特論」「国際交通論特論演習」	
研究テーマ	アジア・欧米諸国の交通インフラ整備、関連政策、各輸送モードの異なる展開、交通に関連する環境の課題	
研究指導領域	本研究室は国境をわたって、各輸送モードをベースとする交通インフラを利用した国際交通との関わりをベースに交通な様々な現象を理論的・実証的に解明することを目的とします。具体的に交通インフラの整備の仕組みやマクロ政策の視点による国際交通の展開を始め、交通理論や交通政策の意味合い、異なる輸送モードの発展経緯と役割・特徴などを研究テーマとしています。また、交通の視点で経済、貿易と関連しながら、企業や産業における効率的な国際交通ネットワーク構築の仕組みつくりの見える化の研究も行っています。	
キーワード (10個以内)	・交通インフラ ・各輸送モード ・交通・物流政策 ・一帯一路 ・国境間交通の整備	・中国・ASEANの交通・物流 ・北米の交通・物流 ・物流園區 ・PPP(パブリックプライベートパートナーシップ) ・途上国の交通インフラ整備
志願者へのメッセージなど	研究者を目指す方を望みます。国際交通、国境を越えるSCM、物流、各輸送モード、中国・ASEANの交通・物流、交通インフラの整備と運営などに関心のある方が対象です。交通関連の課題を解決するために、幅広い交通分野の学問の発展を担っていくことを志する人物を求めます。交通に関する理論的勉強や語学もさることながら、実際の問題解決におけるデータ分析、アンケート表の作成など、関連する指導はもちろん行うが、こうした作業を自ら進んで行う積極性を持つ入室者を期待します。	

商学研究科 教員情報

<貿易系列>

氏名	所 康弘（ところ やすひろ）	
担当専修科目	前期課程:「貿易理論特論」「貿易理論特論演習」 後期課程:「貿易理論特殊研究」「貿易理論特殊演習」	
研究テーマ	グローバル・エコノミーと国際貿易、国際貿易と地政学リスク、グローバル・サウスと世界経済、持続可能な貿易政策（フェアトレード）、国際開発とSDGs（Sustainable Development Goals）	
研究指導領域	本研究室では、グローバル・エコノミーや国際貿易の現状、さらには多国間貿易スキームのダイナミックな構造変動について考察することを目的としています。具体的には、「南北」問題から「南南」問題の登場、そしてグローバル化の進展を経て、不平等を伴いながらも複合的な発展を遂げるグローバル・サウスの台頭というメカニズムとその将来展望について研究しています。 指導領域 ・国際貿易理論や貿易制度、GATT・WTO体制、国際通貨制度の特徴を学ぶ ・国際貿易をめぐる、国際関係がどのように変化してきたかを学ぶ ・南北問題や貿易格差の起源を理解し、近年台頭するグローバル・サウスの背景を学ぶ ・持続可能な貿易政策、フェアトレードとSDGs達成のための国際枠組みのあり方を学ぶ	
キーワード (10個以内)	・グローバル・エコノミー（Global Economy） ・国際貿易（International Trade） ・国際開発（International Development） ・国際協力（Intenatinal Cooperation） ・南北アメリカ地域（North and Latin America）	・グローバル・サウス（Global South） ・国際政治経済（International Political Econo ・SDGs（持続可能な開発目標） ・公正な貿易（Fair Trade） ・アジアと南北アメリカの国際関係
志願者への メッセージなど	国際連合が採択した持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）は、貧困、食料・栄養、保健・公衆衛生、教育、ジェンダー、水、エネルギー、労働、産業、不平等・格差、都市問題、環境・気候変動など、非常に多岐にわたっています。これらは、グローバル時代を生きる私たちすべてにとって避けて通れない問題です。 さらに、先進国においても貧困や格差の拡大、環境破壊などの深刻な問題が生じており、見過ごすことはできません。グローバル化した市場の中では、積極的に参加して利益を享受する人々や地域、企業が存在する一方で、その流れから取り残されたり、参加できない人々や地域、企業も生まれています。それは国籍や居住地にかかわらず、世界中で見られる現象です。 そのような状況だからこそ、SDGsが掲げる「誰ひとり取り残さない」という理念は、どこに住んでいても、どのような生活をしていても、すべての人にとって自らの課題として考えるべきものになっていると言えるでしょう。本研究室での学びが、この「誰ひとり取り残さない」という目標について共に考えるきっかけとなれば幸いです。	

商学研究科 教員情報

<貿易系列>

氏名	小林 尚朗（こばやし なおあき）	
担当専修科目	前期課程:「世界経済論特論」「世界経済論特論演習」 後期課程:「世界経済論特殊研究」「世界経済論特殊演習」	
研究テーマ	グローバリゼーション下の開発と貿易, 東アジア地域協力, 資本主義市場経済の現状分析	
研究指導領域	世界経済論は、リアリズム的な「個々の独立した国家の国家間関係としての国際経済」というアプローチではなく、1つのシステムとしての世界経済を前提として成り立っており、グローバル化が深化する現代においてその重要性を増している。本研究室では、グローバル化を深化させている現代資本主義, 世界経済における周辺地域である発展途上国の経済開発, 南北問題, そのなかで成功を収めているかに見える東アジア経済などについて、理論的・歴史的にアプローチしている。また、現実的な問題として、グローバルな市場経済化の進展がもたらす経済的・社会的問題とそれへの取り組み, グローバル化に対応するための地域経済協力モデル(東アジア共同体に向けた動きや欧州連合[EU]の動きなど)の意義と課題, 新自由主義的なモデルの危機と国家資本主義の台頭, そして、勃興する中国と東アジア経済(および世界経済)などにも強い関心を持っている。	
キーワード (10個以内)	・グローバリゼーション ・発展途上国 ・東アジア地域協力 ・広域経済連携 ・開発と貿易	・ワシントン・コンセンサス ・北京コンセンサス ・アジア・コンセンサス ・新自由主義 ・フェアトレード
志願者へのメッセージなど	世界経済論は、現実の政治経済だけでなく、社会、文化、地政学、そしてこれらの歴史やなど、様々な分野を理解しなければ十分なアプローチができない欲張りな学問です。Slow, small, but steady. 簡単なことではないですが、社会科学として客観性を追求するとともに、経済学という「人間の科学」(A.マーシャル)に挑む研究者として、夢や理想の実現に本気で取り組んでいきましょう。私の研究室では研究のために研究する人物は不要です。人々が、自分が、幸せに生きるために研究する人物を歓迎します。	

商学研究科 教員情報

<貿易系列>

氏名	塩澤 恵理（しおざわ えり）	
担当専修科目	前期課程:「国際ビジネス・コミュニケーション論特論」「国際ビジネス・コミュニケーション論特論演習」 後期課程:「国際ビジネス・コミュニケーション論特殊研究」「国際ビジネス・コミュニケーション論特殊演習」	
研究テーマ	・国際ビジネス・コミュニケーションの研究 ・一般的なビジネスコミュニケーションの研究	
研究指導領域	今や英語でのコミュニケーションは不可欠である。実際にビジネス取引を行う場合、通常の会話だけでは役に立たない。つまりビジネス及び貿易取引、交渉に必要な特別な言い回しや、特殊な熟語が用いられることが多い。本研究室では理論的かつ多角的アプローチでビジネスコミュニケーション、経済学、ビジネス慣習、用語、経済行動などを分析する。指導は基本的に英語（日本語も可能）で行うため、卒業後インターナショナルな場に遭遇しても即対応できる。	
キーワード (10個以内)	・国際ビジネス・コミュニケーション ・国際貿易交渉 ・国際経済学 ・ビジネス交渉論（国内外） ・経済学の分析	・経済学の心理学、行動分析 ・異文化のビジネス分析 ・ビジネスリーダーの分析
志願者への メッセージなど	英語を翻訳せずにクラスでは自由に英語を分析道具として利用します。第一歩として英語に自信がなくても恐れずにチャレンジすることが大切です。 ますますボーダレスが進む世界で活躍できるように自分を磨いて、勉強、研究しましょう。	